



金星はなぜいちばん最初に光るの

「明けの明星」「よいの明星」

金星は太陽、月について明るく見える天体です。金星は水星と同じように、地球の内側を回っているわく星です。地球からはいつも太陽の近くに見え、明け方や夕方に見られます。

(真夜中には、見ることはできません。)

明け方に見られる金星を「明けの明星」、夕方に見られる金星を「よいの明星」とよびます。そして、よいの明星は一番星として最初に輝きますが、金星がよいの明星でないときは、ほかの星が一番星になります。

金星の大気はほとんど二酸化炭素

地球の大気はおよそ5分の4が酸素、5分の1が酸素で、そのほかの二酸化炭素などの気体はほんのわずかです。

しかし、金星は大気の96.5パーセントが二酸化炭素で、表面の大気圧は地球の90倍もあります。金星はこの二酸化炭素のために、地表の温度が470度C以上もあるのです。これでは、生物はほとんど生きてはいけません。

また、金星の二酸化炭素の大気は厚い雲となり、太陽の光を良く反射します。そのため地球から見る金星は、1等星の約100倍も明るく輝いて見えます。(監修 国司 真)

- 太陽がしずむと、最初に
見えるよいの明星
夕方の西の空に見え、望遠鏡で見ると月のように、満ち欠けをかんさつできる。

